

2024年3月期第2四半期 決算補足説明資料

株式会社インプレスホールディングス
(スタンダード：9479)

2023年11月10日

免責事項

本資料の取り扱いについて 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性あるいは完全性について、何ら表明及び保証するものではありません。

2024年3月期第2四半期業績

2024年3月期第2四半期業績ハイライト

- 出版市況の悪化及びクライアントニーズの変化の影響が続く中、第2Q（3ヵ月）はほぼ前期並みの売上高を計上したものの、第1Qのメディア事業の大きな減収が響き、連結売上高は7,038百万円（前期比▲2.9%/▲208百万円）。
- メディア事業の業績悪化は収益性の高い既刊書籍・電子書籍・ターゲット広告の減収に起因するもので、第2Qも同傾向は継続、また前期刊行した商品力の弱い書籍を中心に返品が増加し前年同期に比べて第2Qで在庫の調整が大きく進んだことで売上原価が増加し、営業利益は▲370百万円（前期比▲549百万円）、経常利益は▲333百万円（前期比▲546百万円）、当期純利益は▲371百万円（前期比▲518百万円）と大幅な減益となり、各段階利益で赤字を計上。
- 出版・電子出版は、新刊の刊行遅れはありながら、新刊書籍の販売は回復基調も、既刊書籍の出荷減・返品増が継続、電子書籍がモバイルサービスセグメントにおける人気タイトルの配信終了で減収となり、売上高3,745百万円（前期比▲3.0%/▲116百万円）。
- ネットメディア・サービスは、ネットワーク広告の単価下落が一巡、アフィリエイトも好調となったことで回復傾向に転じ、第1Qの落ち込みをカバーし、売上高863百万円（前期比+0.5%/+4百万円）。
- ターゲットメディアは、新型コロナを契機とした市場成長に陰りが見え、ターゲット広告の収入の減少が続いていることに加え、第2Qからはイベント収入にも弱含みな展開が見え始め、売上高489百万円（前期比▲17.3%/▲102百万円）。
- プラットフォーム事業は、電子コミックPFが前期第2Qに出版社向けサービスの一部が終了したことで調整局面に入り、減収。主力サービスは、人気タイトルの牽引等で想定を上回る推移を維持しているものの、売上高1,281百万円（前期比▲5.6%/▲76百万円）。

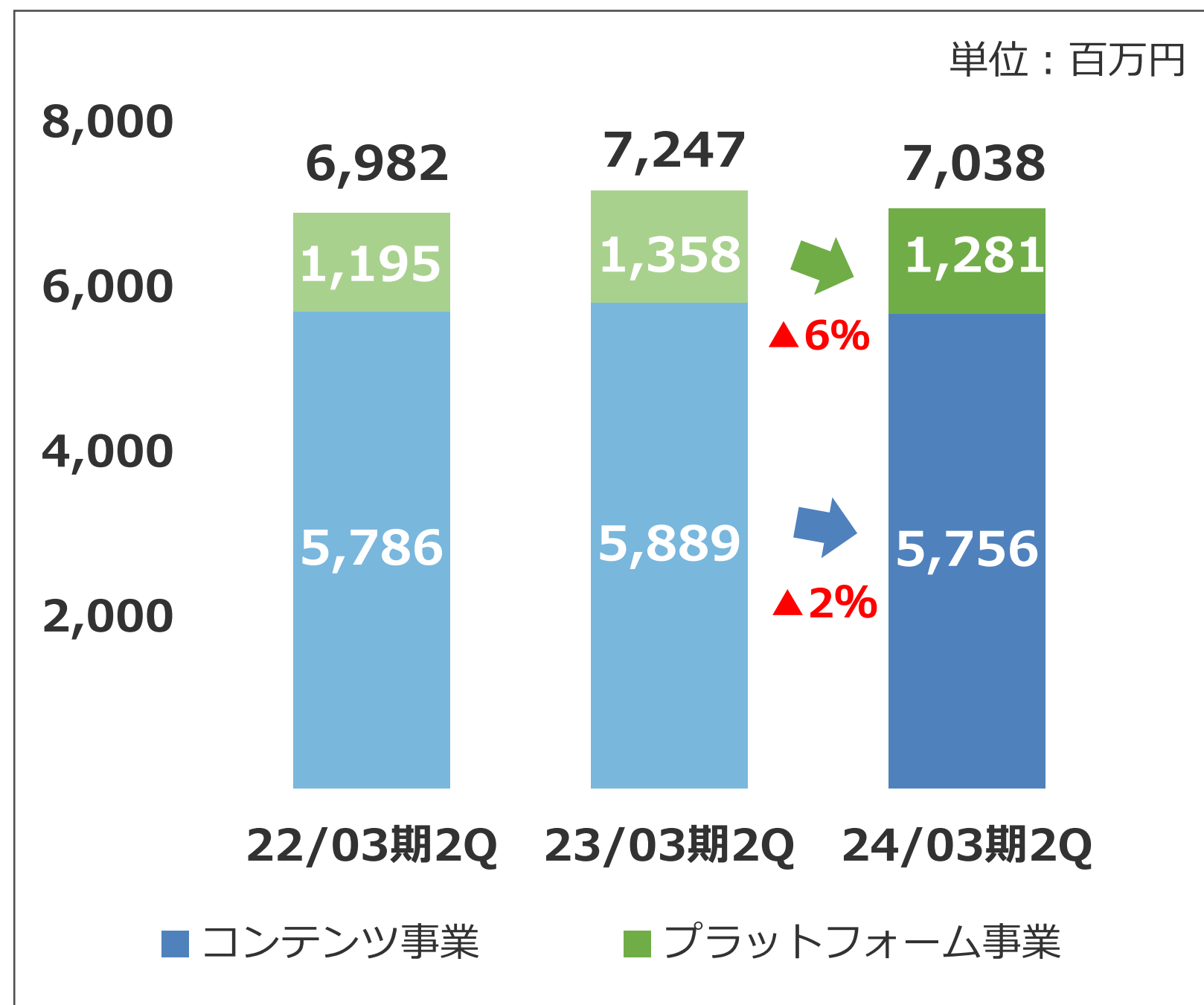
2024年3月期第2四半期連結業績

単位：百万円

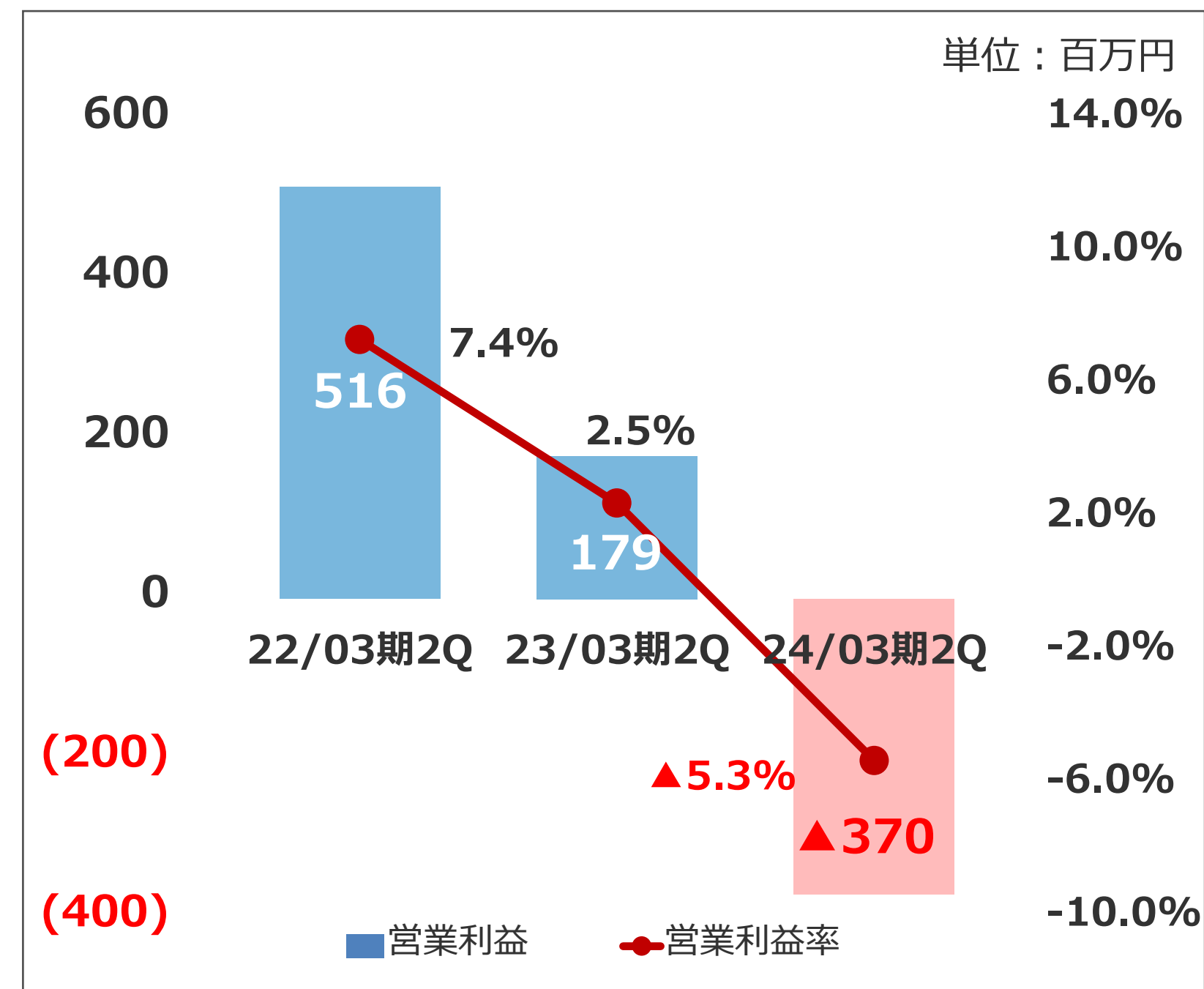
	23/03期 第2四半期	24/03期(当期) 第2四半期		
	実績	実績	前期比	
売上高	7,247	7,038	▲2.9%	▲208
営業利益	179	▲370	—	▲549
経常利益	213	▲333	—	▲546
当期純利益	147	▲371	—	▲518

連結業績推移（3期比較）

■売上高



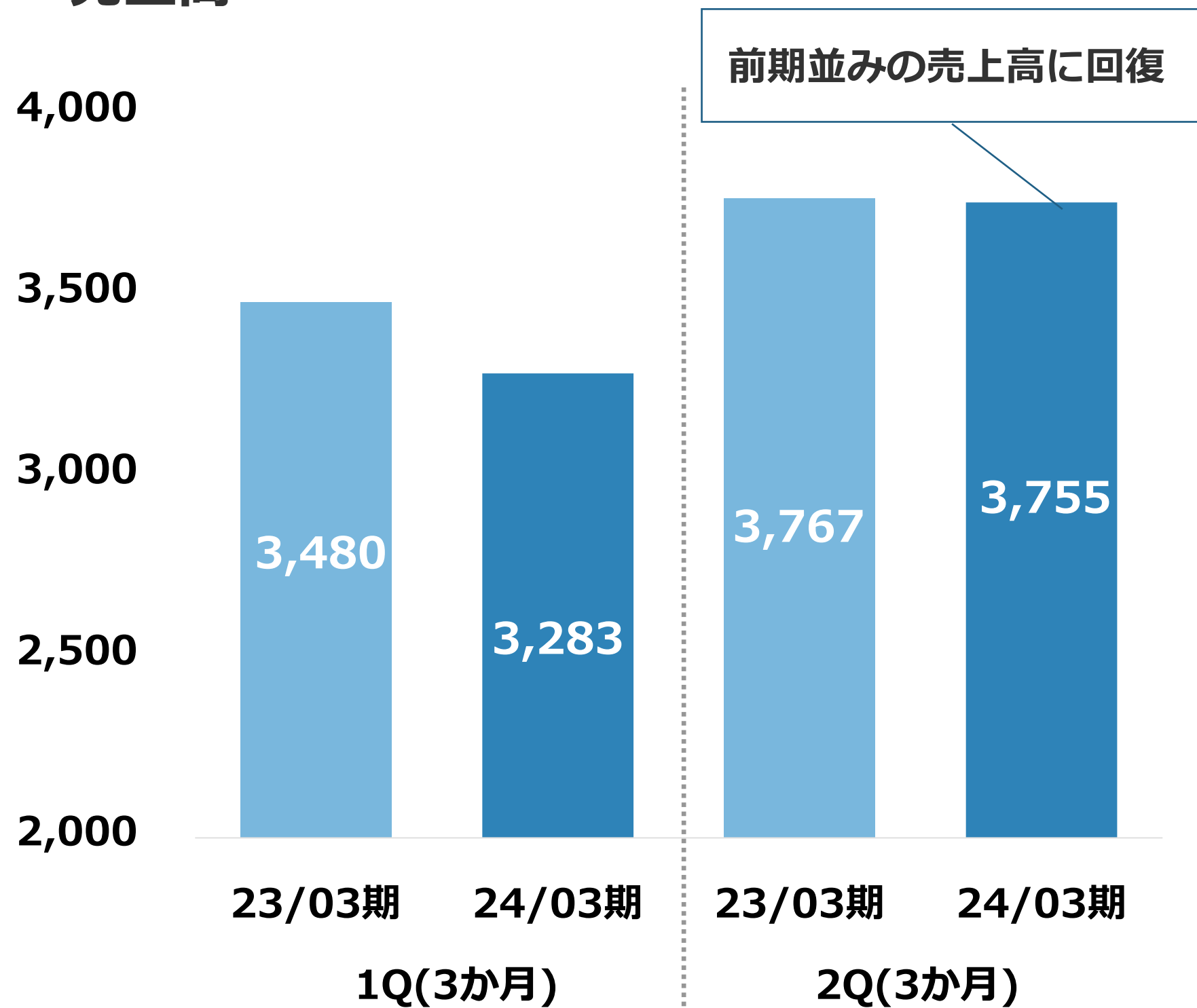
■営業利益・営業利益率



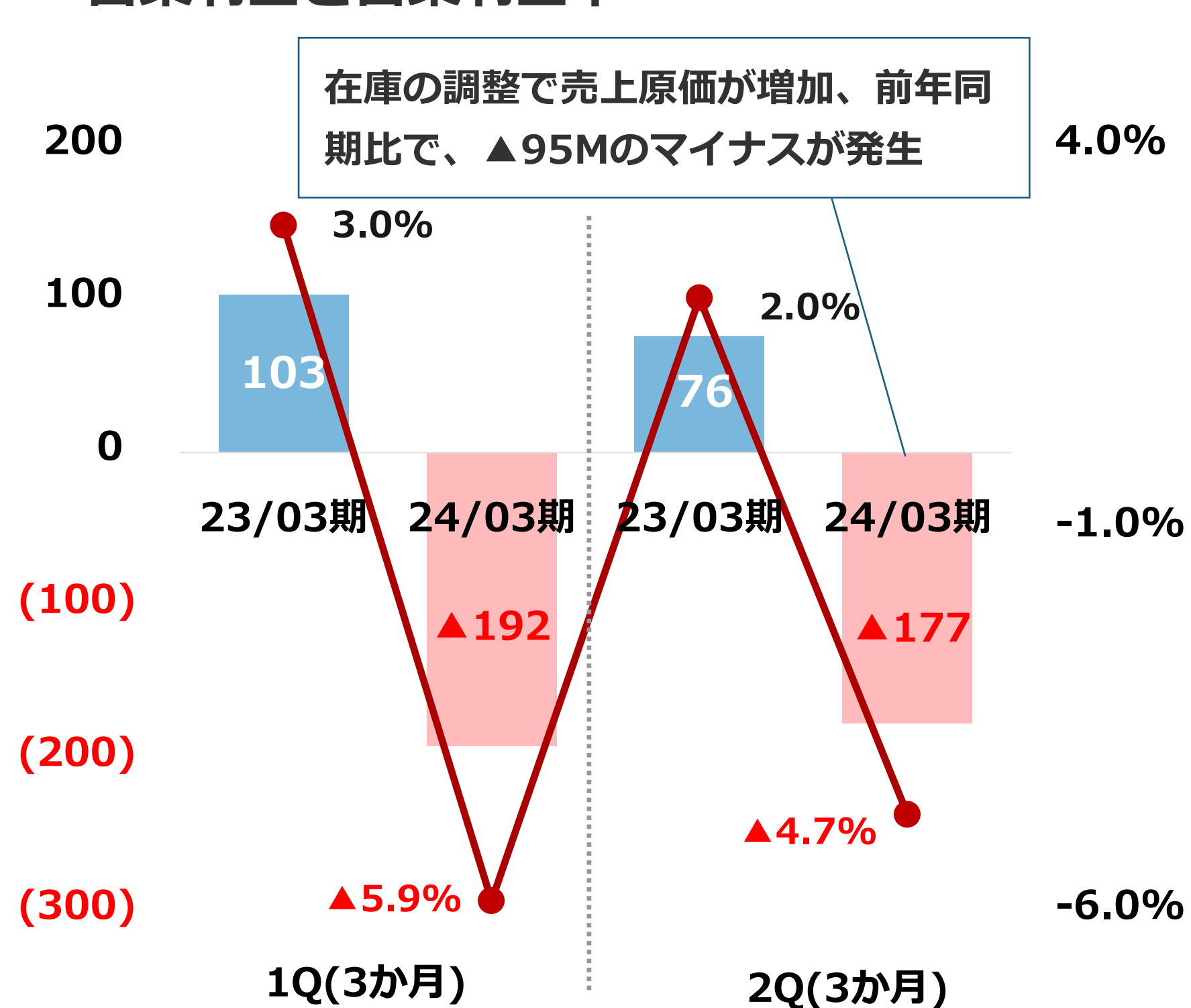
連結業績推移（四半期比較）

単位：百万円

■ 売上高

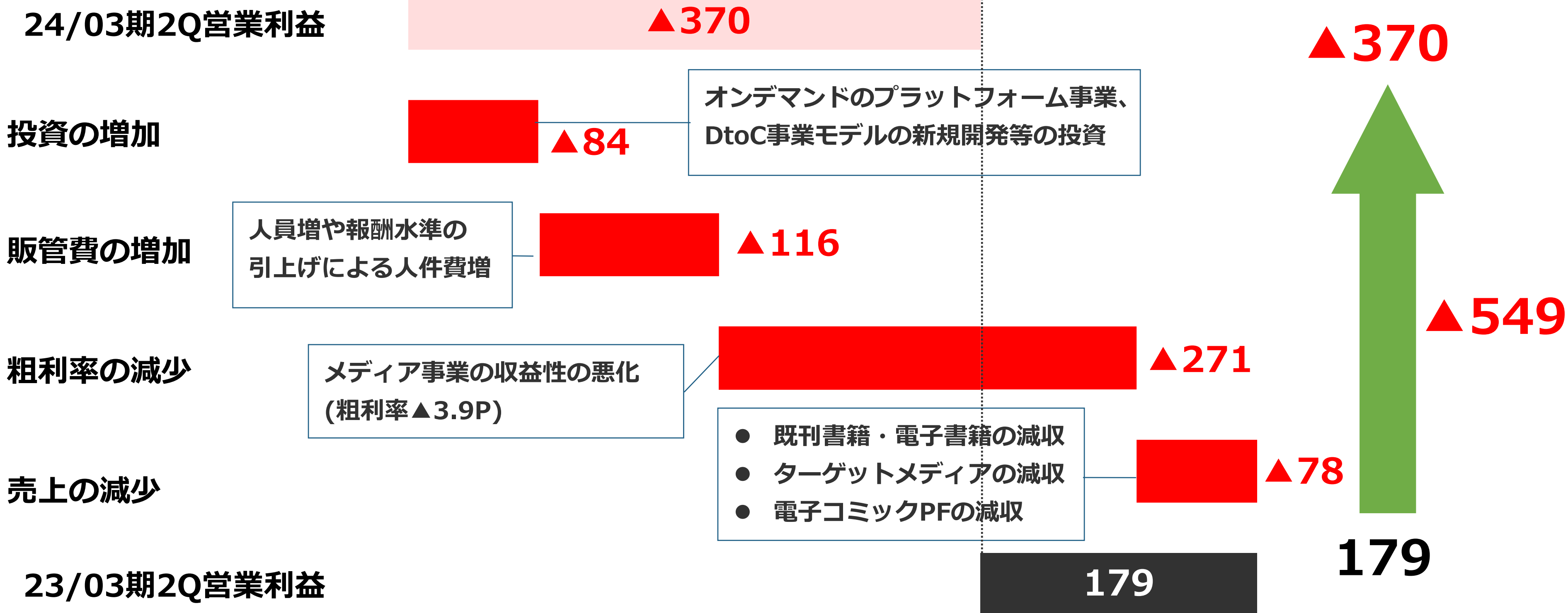


■ 営業利益と営業利益率



2024年3月期第2四半期 営業利益の減小要因

単位：百万円



事業区分・セグメント別業績概要

2024年3月期第2四半期 事業区分別売上高

単位：百万円

事業区分	23/03期	24/03期(当期)		
	実績	実績	前期比	
コンテンツ事業	5,889	5,756	▲2.2%	▲132
出版・電子出版	3,861	3,745	▲3.0%	▲116
ネットメディア・サービス	859	863	+0.5%	+4
ターゲットメディア	591	489	▲17.3%	▲102
ソリューション	576	658	+14.4%	+82
プラットフォーム事業	1,358	1,281	▲5.6%	▲76
合計	7,247	7,038	▲2.9%	▲208

2024年3月期第2四半期 事業区分別売上高の減少サマリー

単位：百万円

24/03期2Q売上高

7,038

7,038

プラットフォーム

電子コミックPFで出版社向けサービスの一部が終了



▲76

ソリューション

シフカ連結による増収



+82

ターゲットメディア

市況感の変化で調整の局面に



▲102

ネットメディア・サービス

第1Qの落ち込みをカバーし、前期並みに回復



+4

出版・電子出版

- 出荷減・返品増による既刊書籍の減収
- 電子書籍の減収



▲116

23/03期2Q売上高

7,247

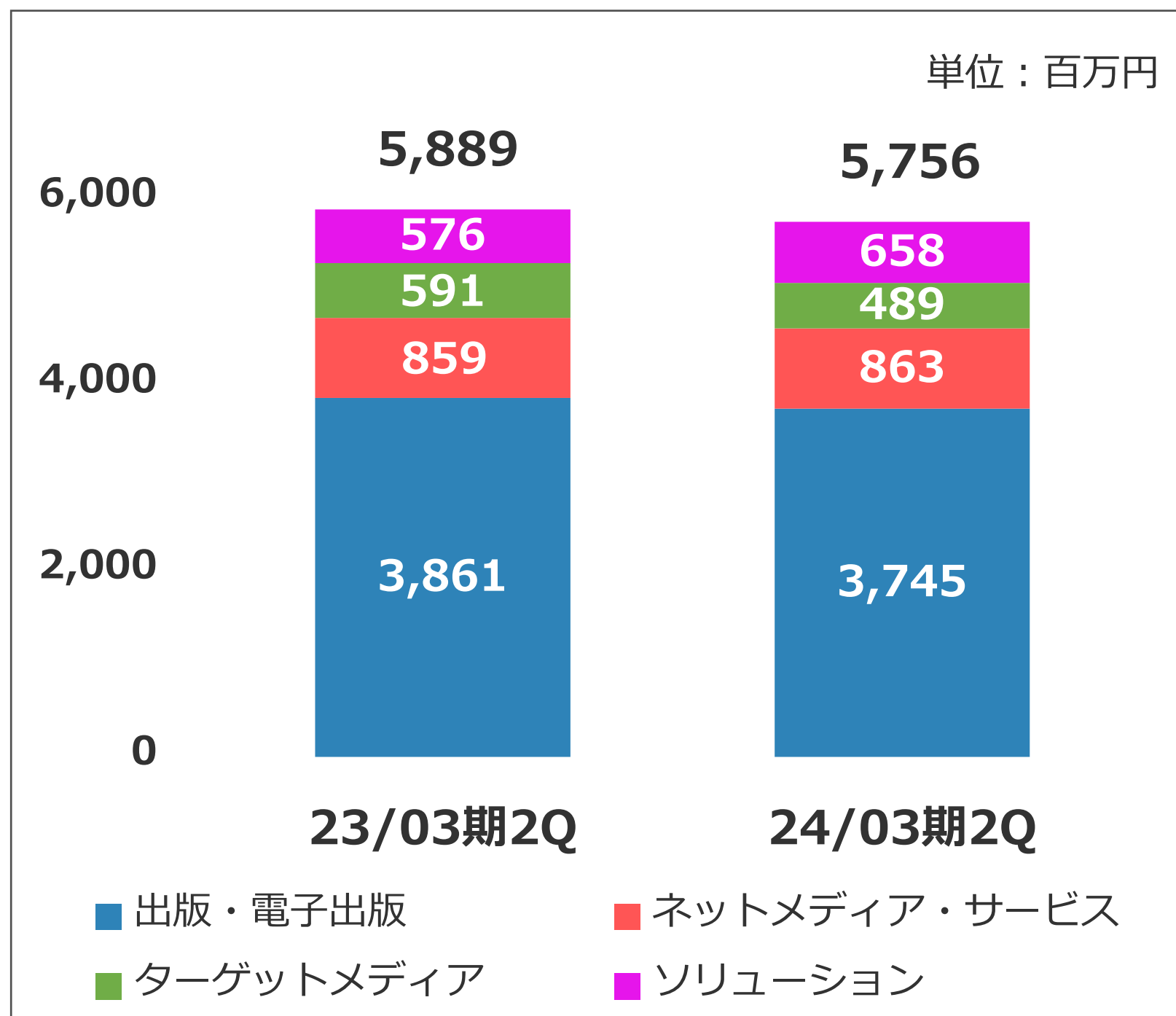
7,247



▲208

2024年3月期第2四半期 事業区分別売上高：コンテンツ事業

■コンテンツ事業売上高



コンテンツ事業：▲2.2%（▲132M）の減収

■ 出版・電子出版：▲3.0%（▲116M）の減収

新刊書籍は、刊行点数減も、売れ行き良好書の増加により増収も、既刊書籍が出荷減・返品増で書籍の大幅減収に加え、電子書籍がモバイルサービスセグメントにおける人気タイトルの配信終了で減収。

■ ネットメディア：+0.5%（+4M）の増収

ネットワーク広告の単価下落が一巡、アフィリエイトも好調となったことで回復傾向に転じ、第1Qの落ち込みをカバー。

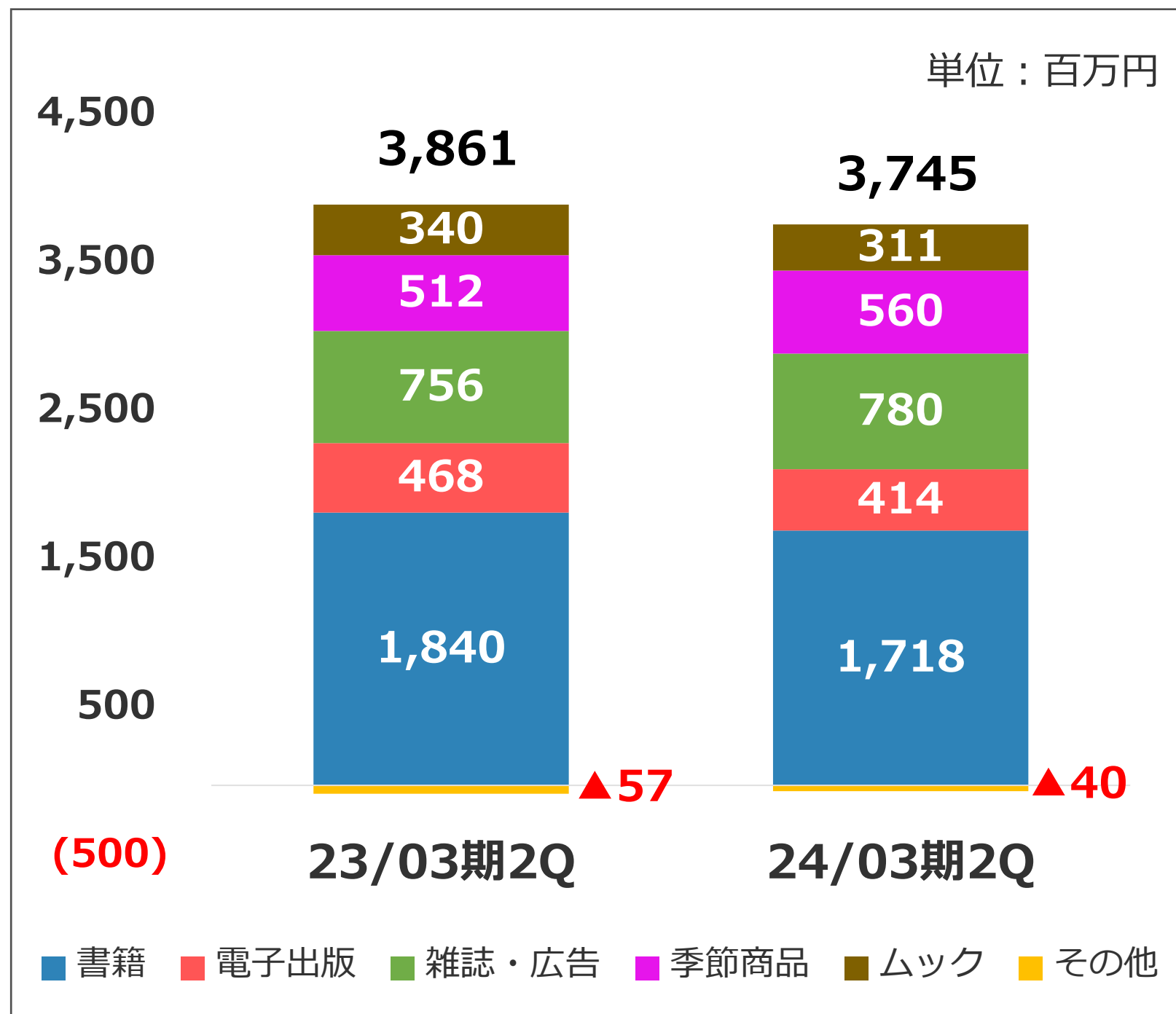
■ ターゲットメディア：▲17.3%（▲102M）の減収

新型コロナを契機とした市場成長に陰りが見え、ターゲット広告の収入の減少が継続、第2Qからはイベント収入も弱含み。

2024年3月期第2四半期 事業区分別売上高：コンテンツ事業_出版・電子出版

■コンテンツ事業：出版・電子出版売上高

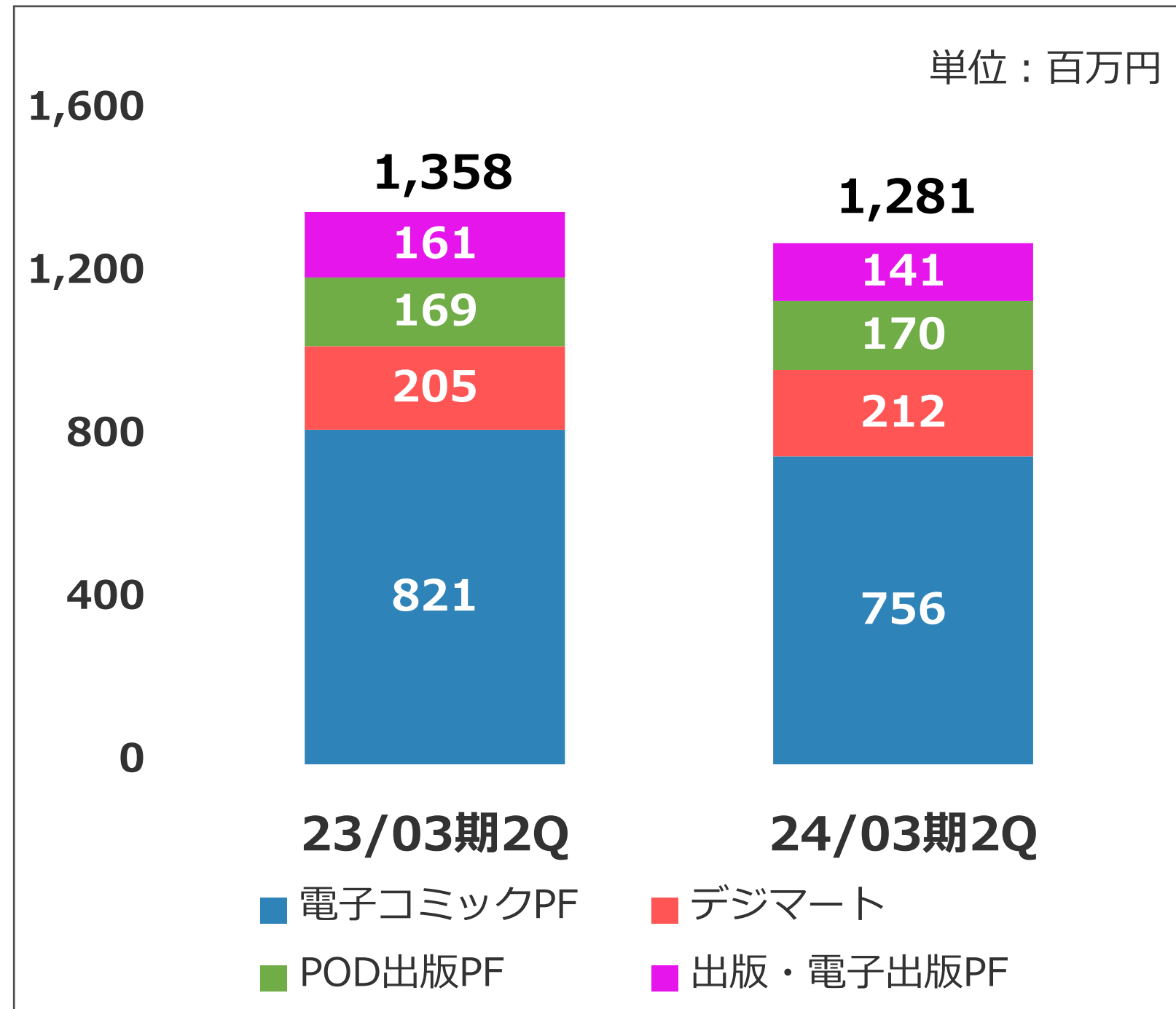
出版・電子出版：▲3.0% (▲116M) の増収



- 書籍：▲6.7% (▲122M) の減収
新刊は、刊行点数減も、売れ行き良好書の増加により増収も、既刊は、前期刊行タイトルの商品力が弱さが影響し、出荷減・返品増により大幅減収。
- 電子出版：▲11.4% (▲53M) の大幅減収
モバイルサービスセグメントにおける人気タイトルの配信終了、デザインセグメントの減収。
- 雑誌・広告：+3.1% (+23M) の増収
刊行点数減も、音楽セグメントで企画規模の大きい刊行があったことに加え、仕上がり良化。
- 季節商品：+9.2% (+47M) の増収
カレンダーの点数増、堅調な出荷に加え、商品価格を引上げ。
- ムック：▲8.4% (▲28M) の減収
航空・鉄道セグメントで、不採算タイトルの整理により、刊行点数が減少。

2024年3月期第2四半期 事業区分別売上高：プラットフォーム事業

■プラットフォーム事業売上高



プラットフォーム事業：▲5.6% (▲76M)

- 電子コミックPF：▲7.8% (▲64M) の減収
出版社向けサービスの一部が終了したことにより、減収。主力サービスは好調に推移、海外案件の受注が拡大。
- デジマート：+3.3% (+6M) の増収
取引高が堅調に推移、楽器店からの決済サービス収入が増加。
- POD出版PF：+0.7% (+1M) の増収
法人向けPOD出版サービスにおいて、取引出版社数が増加。個人向けPOD出版サービスは、利用者数は堅調に推移するも、ヒットタイトルに恵まれず伸び悩み。
- 出版・電子出版PF：▲12.3% (▲19M) の減収
パートナー出版社の取扱減により手数料収入等が減少。

2024年3月期第2四半期 セグメント別概況

- メディア事業の厳しい動向を受け、全セグメントが減益となる厳しい結果となった。
- 最も減益幅の大きいITは、ネットメディアの広告は回復傾向も、出荷減・返品増により既刊書籍が減収、ターゲット広告・イベント収入が減収と、収益性の高い事業の減収幅が大きかったことに加え、販売管理費の増加により、大幅な減益となった。
- 出版事業を収益基盤とするデザイン、山岳・自然に加え、第1四半期は増益だった音楽セグメントにおいても減益の結果となった。デザインは収益性の高い既刊書籍と電子書籍の減収で大幅な減益、山岳・自然は新刊書籍や季節商品は堅調も既刊書籍の減収により減益、音楽は第2四半期の在庫調整による売上原価の増加で減益となった。
- 事業構造改革フェーズにある航空・鉄道は、不採算な雑誌・ムックの刊行タイトルを整理しながら電子出版・書籍の拡大で増収も、売上原価と販売管理費の増加で減益となった。
- モバイルサービスは、出版社向けサービスの一部が終了する調整局面で減収減益も、主力サービスは好調な推移を維持、海外案件の受託拡大もあり、想定を上回る推移となった。
- その他は、プラットフォーム事業等の新規開発に伴う投資で減益となった。

2024年3月期第2四半期 セグメント別売上高・セグメント利益

単位：百万円

セグメント区分	売上高		セグメント利益	
	金額	前期比	金額	前期比
IT	2,885	▲2.9%	171	▲288
音楽	950	+5.7%	▲92	▲20
デザイン	379	▲21.6%	▲103	▲60
山岳・自然	894	+3.8%	▲8	▲35
航空・鉄道	655	+2.4%	▲129	▲52
モバイルサービス	835	▲9.9%	187	▲11
その他	801	+20.5%	▲93	▲90
全社 + 消去	▲363	—	▲300	+8
合計	7,038	▲2.9%	▲370	▲549

連結業績見通しについて

2024年3月期 通期業績見通し

- 2023年8月10日付で修正した上半期及び通期の業績予想に対する動向としては、
- 上半期は、ネットメディアの広告等が回復傾向となったが、既刊書籍の出荷減・返品増の傾向が想定を上回ったことなどを要因に、売上は予測を若干下回る動向。
- また、前期刊行した商品力の弱い書籍を中心に返品が増加し前年同期に比べて在庫の調整が大きく進み売上原価が増加したことを主要因に、営業損失は、予想に対して損失が120百万円拡大。
- 通期の業績見通しについては、電子書籍の販売不振、既刊書籍の出荷・返品動向やターゲットメディアの市況の変化等をリスクとして認識。
- ただし、上半期で大きな在庫調整が一巡したこと、また下半期において、投資予算の圧縮や原価及び販管費等のコスト削減の徹底、新刊の刊行遅れの挽回や回復傾向となったネットメディアの広告等によるリカバリーの取組みを進めており、現時点では通期業績予想に変更はなく、据え置きとする。

2024年3月期 通期業績見通し

単位：百万円

※23/8修正の通期業績予想は据え置き

	通期			上半期			下半期		
	予想	見通し	増減	予想	実績	増減	予想	見通し	増減
売上高	15,500	15,500	－	7,150	7,038	▲111	8,350	8,461	+111
営業利益	150	150	－	▲250	▲370	▲120	400	520	+120
経常利益	250	250	－	▲200	▲333	▲133	450	583	+133
当期純利益	100	100	－	▲250	▲371	▲121	350	471	+121

【参考】 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

■ 現状の認識：2022年以降、PBRが1倍を割る状態が継続

① 2020/10以降のPBR推移



② 3力年の主要指標の推移

	2021/03期	2022/03期	2023/03期
売上高(百万円)	13,850	14,778	15,161
営業利益率	5.9%	5.7%	2.5%
配当性向	19.7%	24.8%	44.9%
ROE	8.2%	9.9%	4.0%

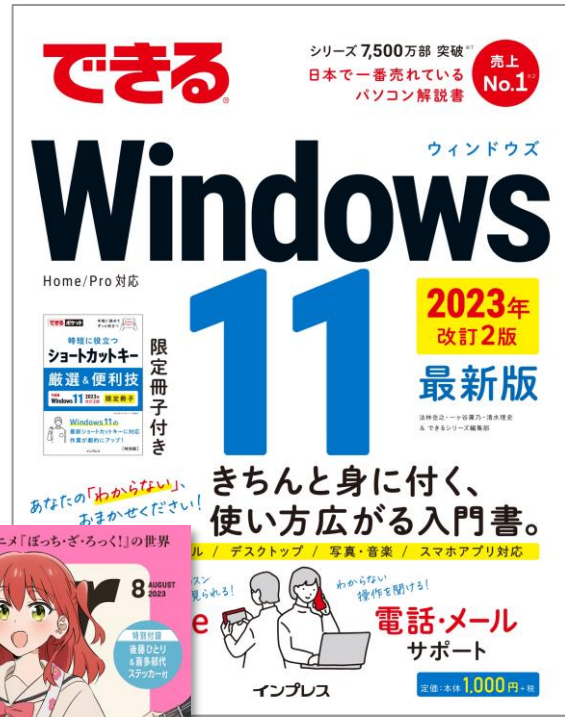
■ 今後の予定

現在、収益力の底上げ、安定的な利益成長を重点課題とし、目標および具体的な取組みについて、継続検討中。
プランがまとまり次第、速やかに公表の予定です。

(参考資料) 当社グループの概要

当社グループの「セグメント」と「事業」





専門書籍・雑誌

電子書籍

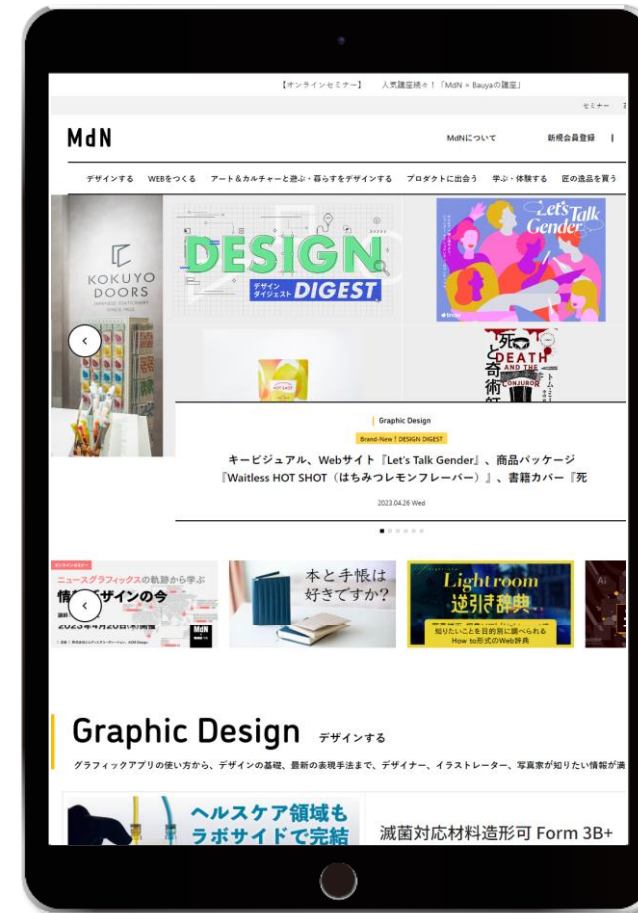
年賀状ムック
カレンダー



デジタル総合
ニュース



登山



デザイン

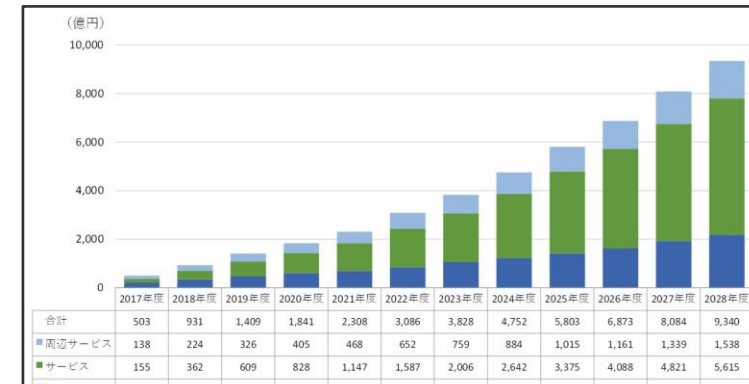


音楽

IT Leaders



ビジネスメディア



調査報告書

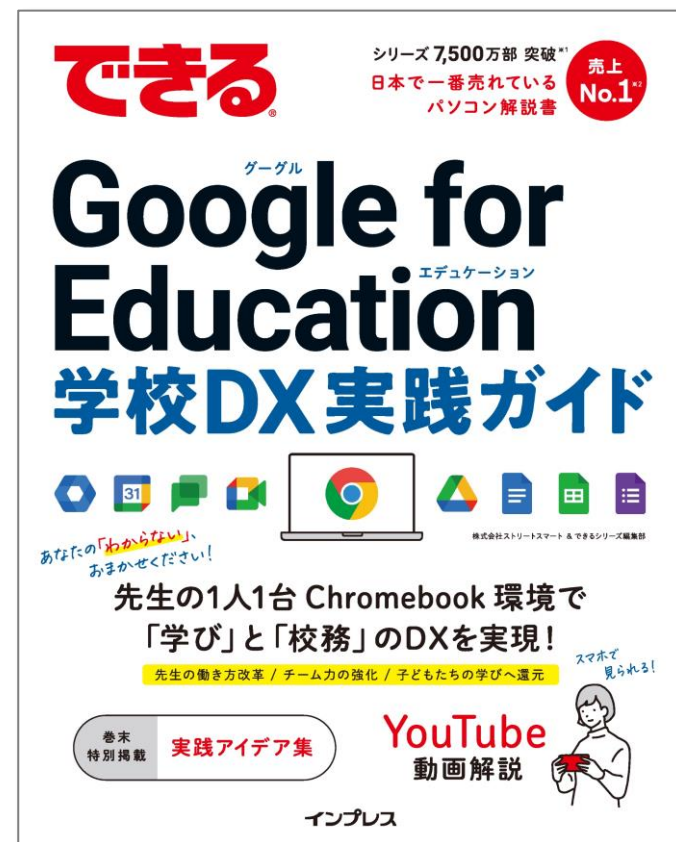
サービスと周辺サービスの3つで構成される。ローバー型、ポット型、潜水型)の完成品機体の国内での販売金額、ドローンを活用した業務の提供企業の売上額。ただし、ソリューションの一部のみの売上を推計。企業や公共団体が自社保有のドローンを活用する推計。周辺サービス市場は、バッテリー等の消耗品の販売額、定期メンテナンス市場。

出所：インプレス総合研究所作成



イベント・セミナー

コンテンツ事業 [ソリューション事業]



公財) 神奈川県観光協会

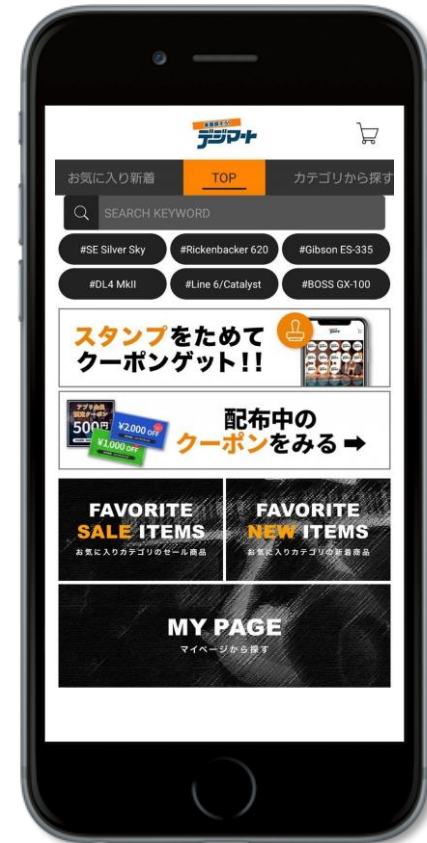
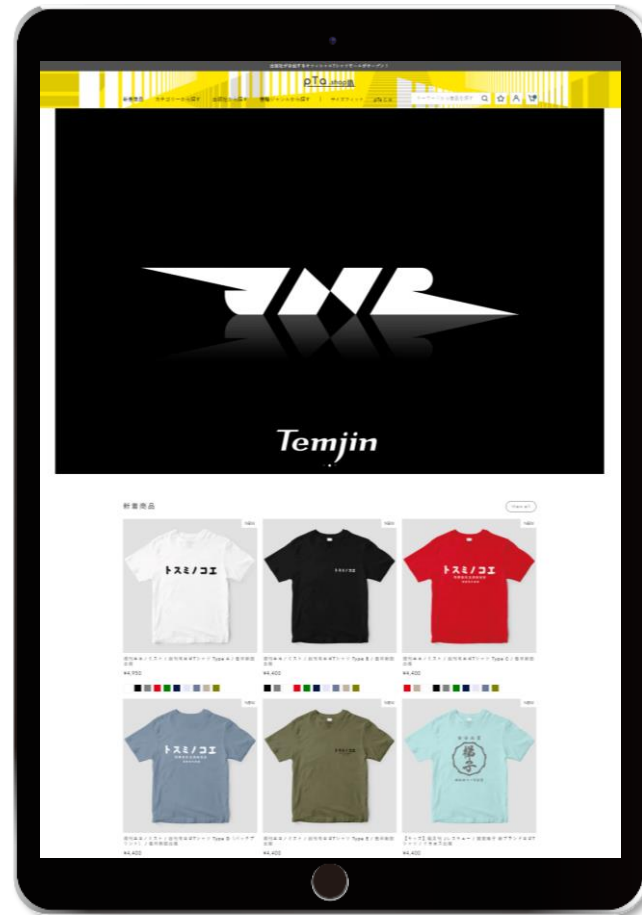
企業・自治体等のSP・PRツール、Webサイト等の制作受託

プラットフォーム事業

PTA.shop

楽器探そう!
デジポト

PUBFUN



EC
プラットフォーム

電子コミック
プラットフォーム

POD出版
プラットフォーム